

2019年3月期決算および 中期経営計画2019説明会

代表取締役社長
藤井 敏道

2019年5月27日



株式会社 ピーエス三菱

目次

1. 2019年3月期 決算概要	P. 2
2. 中期経営計画2019	P. 16
3. 2020年3月期 業績予想	P. 32
Appendix ご参考	P. 36

1. 2019年3月期 決算概要

2

2019年3月期 トピックス

建設業界は引き続き好況、各方面で働き方改革に向けた行動計画が策定される

- 2019年度建設投資額は前年度比2.1%増の57兆9,100億円の見通しとなり、4期連続で増加見通し
 - 2018年度補正予算の執行が始まる等、インフラ老朽化対策などの公共投資は継続、NEXCO大規模更新事業の発注も本格化
 - 民間設備投資は高水準な企業収益に支えられ、工場設備の更新や物流施設の新築等、堅調に推移
- 働き方改革に向けた政府・国交省他、建設関係団体の取り組みが加速
 - 政府の「働き方改革実行計画」に基づき、日建連の「週休二日実現行動計画」が推進中であり、更に国交省において長時間労働の是正、給与・社会保険、生産性向上の3つの分野における新たな施策をパッケージとしてまとめた「建設業働き方改革加速化プログラム」が策定
 - プレストレスト・コンクリート建設業協会が2017年12月に策定した「働き方改革の基本方針」に基づく「週休2日実施に向けたマスタープラン」を推進中であり、国交省等の意見交換会で提言するなど、建設業の働き方改革が加速

売上高は期初計画比で減少するも各利益項目は大きく改善し、5期連続で最高益更新

- 売上高は、土木事業でNEXCO関係の設計変更獲得等により増加するも、建築事業の同業他社との競争激化等により減収
 - 期初計画比2.4%の減少、前年度比4.0%の減少
- 売上総利益は、NEXCO新名神関係の設計変更獲得等により全体で5.0ポイントの改善
 - 期初計画：11.4%→2019.3期：16.4%
 - 土木事業の利益率は期初計画よりも8.5ポイント上昇し20.9%、建築事業の利益率は8.1%と1.6ポイント低下
- 各利益項目が期初計画比で大きく改善し、当期純利益が79億18百万円となり、5期連続で最高益更新
 - 期初計画比増加率：売上総利益+40.1%、営業利益+113.3%、経常利益+123.1%、当期純利益+182.8%

働き方改革の取り組みと人材採用状況

- 2018年4月に実施した「働き方改革 アクションプラン・ステップ1」に続く第2弾を始動
 - 「アクションプラン・ステップ1」①総労働時間の削減、②週休2日の推進、③ハラスメント対策、従業員満足度調査結果の分析・対策、④“Smart Work Meeting”の設置に続き、2019年4月より「アクションプラン・ステップ2」として①年次有給休暇の計画的付与、②工事休暇の完全取得、③フレックスタイム制の適用範囲拡大を策定し推進中
 - ※Smart Work Meeting:各支店の働き方改革委員会による推進活動
- 全社的なリクルート対応の強化、シニア再雇用及び離職抑制対策により、単体では1,067名(2018年3月実績)から1,089名と22名増加となったものの、当社グループ人員数においては関係会社の大型工事完了に伴う人員減もあり1,725名(2018年3月実績)から1,700名と25名減少

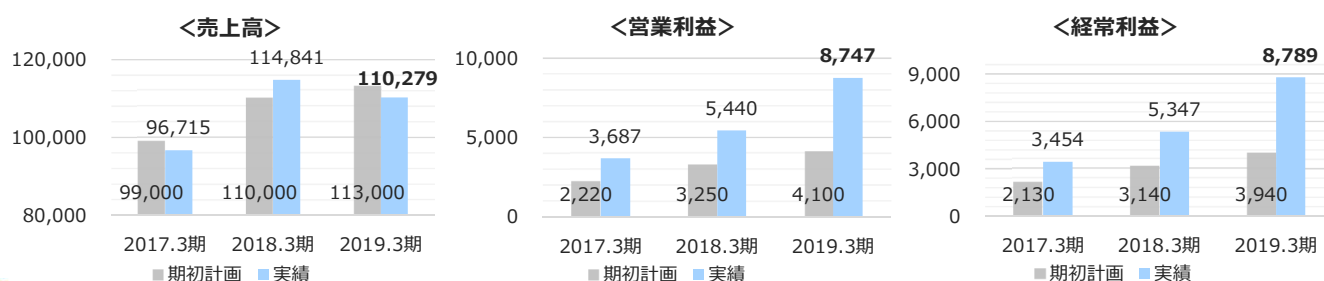
3

業績サマリー

連結業績サマリー

(単位：百万円、%)

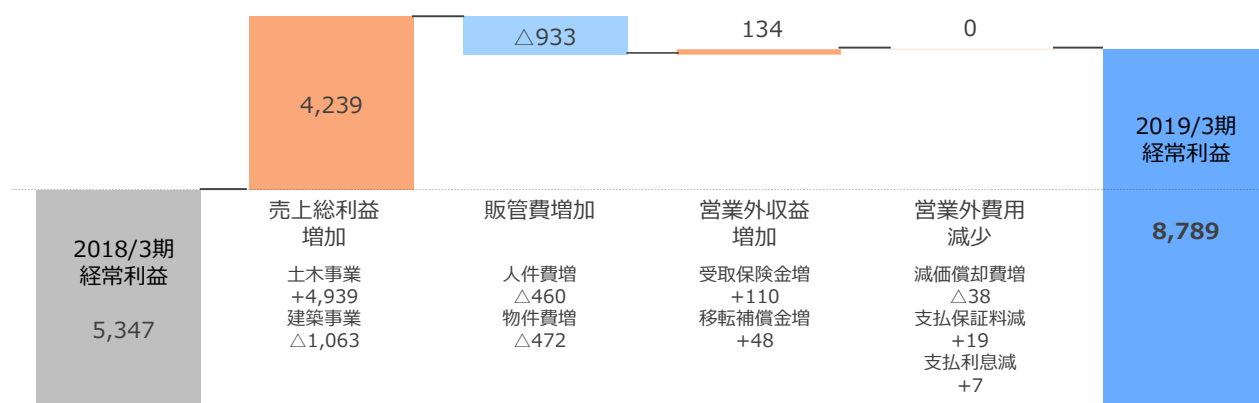
	2017.3期		2018.3期		2019.3期			コメント
	実績	前年比	実績	前年比	実績	前年比	期初計画比	
売上高	96,715	0.7	114,841	18.7	110,279	△4.0	△2.4	手持工事の進捗が計画より減少
売上総利益	11,460	14.4	13,819	20.6	18,059	30.7	40.1	土木大型案件の設計変更獲得、原価改善の取組み等により向上
営業利益	3,687	27.5	5,440	47.6	8,747	60.8	113.3	販管費増加があったものの売上利益の増加により6期連続増益
経常利益	3,454	23.4	5,347	54.8	8,789	64.4	123.1	受取保険金の収入等
親会社株主に帰属する当期純利益	2,653	46.0	3,844	44.9	7,918	106.0	182.8	5期連続で最高益更新 繰延税金資産計上約17億円
1株当たり年間配当金（円）	12.0		18.0		32.0			普通配当 2円増配の20円 特別配当 12円



利益増減分析（前年同期比）

経常利益増減分析

(単位：百万円)



- 売上高は建築の工事進捗が計画より減少し前期比4.0%減、売上総利益は前期比42億39百万円大幅増加し、利益率が12.0%から16.4%に向上
 - 土木事業は、当期受注高の増加及びその進捗により売上高が増加、工事竣工に伴う設計変更の獲得等により工事採算が大幅改善
 - 建築事業は、前期からの繰越工事の減少により売上高、売上総利益ともに減少
- 販管費が前期比9億3千3百万円増加
 - 人財確保を目的とした従業員の処遇改善等の施策により人件費が増加、過年度情報処理費用の計上等により物件費が増加
- 営業外収益が1億3千4百万円増加
 - 主に受取保険金の収入等により増加
- 営業外費用が0百万円減少
 - 旧工場跡地売却に伴う建屋解体費計上があるものの、支払保証料の減少等により減少

利益増減分析（期初計画比）

経常利益増減分析

（単位：百万円）

【期初計画】 2018/3期 経常利益	5,169 売上総利益 増加	△521 販管費増加	174 営業外収益 増加	27 営業外費用 減少	【実績】 2019/3期 経常利益 8,789
3,940	土木事業 +6,248 建築事業 △1,171	人件費増 △338 物件費増 △183	受取保険金増 +110 移転補償金増 +48	減価償却費増 △38 支払保証料減 +37 支払利息減 +10	

- 売上高が建築の受注時期の期ずれ等により工事進捗が計画より減少し計画より2.4%減少したものの、売上総利益は51億69百万円増加、売上総利益率が11.4%から16.4%に上昇
 - － 土木事業は、工事竣工に伴う設計変更獲得等により売上総利益が62億48百万円増加し、利益率が12.4%から20.9%に上昇
 - － 建築事業は工事進捗が計画より減少したことにより、売上総利益が11億71百万円減少し、利益率が9.7%から8.1%に低下
- 販管費が期初計画比 5 億21百万円増加
 - － 人財確保を目的とした従業員の処遇改善等の施策により人件費が増加、過年度情報処理費用の計上等により物件費が増加
- 営業外収益が期初計画比1億74百万円増加
 - － 主に受取保険金の収入等により増加
- 営業外費用が期初計画比27百万円減少
 - － 旧工場跡地売却に伴う建屋解体費計上があるものの、支払保証料の減少等により減少

セグメント別業績

セグメント別売上高・売上総利益・受注高

		2017.3期	2018.3期	2019.3期		（単位：百万円、%） コメント
		実績	実績	実績	前年比	
売上高	土木事業	49,356	63,798	67,489	5.8	・土木事業ではNEXCO関連の進捗により大幅増加 ・建築事業では繰越案件の減少及び進捗計画の未達により減少
	建築事業	44,815	48,770	40,592	△16.8	
	製造事業	1,819	1,638	1,551	△5.3	
	その他兼業事業	723	634	644	1.7	
	合計	96,715	114,841	110,279	△4.0	
売上総利益	土木事業	6,501	9,178	14,118	53.8	・土木事業の売上総利益は、設計変更獲得、工事採算の向上により増加 ・建築事業の売上総利益は、売上高の減少、工事採算の回復が図れず減少
	建築事業	4,303	4,361	3,298	△24.4	
	製造事業	294	3	207	5604.1	
	その他兼業事業	293	304	304	△0.1	
	調整額	67	△28	131	－	
	合計	11,460	13,819	18,059	30.7	
受注高	土木事業	55,192	55,573	85,066	53.1	・土木事業は、大規模更新案件の堅調な受注、工事完成に伴う設計変更獲得等により大幅増加 ・建築事業は、予定していた大型案件の獲得等により増加
	建築事業	45,278	45,165	46,188	2.3	
	製造事業	1,819	1,638	1,551	△5.3	
	その他兼業事業	723	634	644	1.4	
	合計	103,013	103,012	133,451	29.5	

土木事業

業界環境

- 2018年度公共事業関係費は、前年度並みの約6兆円の見通しだが、2019年度は前年度比15.6%増の約6.9兆円の見込み
 - ― 防災・減災対策強化のための緊急対策や老朽化対策、力強く持続的な経済成長の実現に向けた物流ネットワークの強化や整備新幹線の着実な整備を推進
- 2018年度PC市場は約3,500億円と前年度16%増、2019年度も前年度並みを見込む
 - ― 整備新幹線事業や高速道路の維持補修事業の大幅増加により、各社との受注競争が激化

業績推移



- 当期受注高の増加及びその進捗により売上高が増加、工事竣工に伴う設計変更獲得や原価改善により売上総利益は大幅増加
- 受注高は、前期より期ずれ案件の他、当期発注の大型床版取替工事及び大型新設橋梁工事の受注も順調に獲得し、前年及び期初目標より大幅増加

大型受注案件（受注金額上位3件）

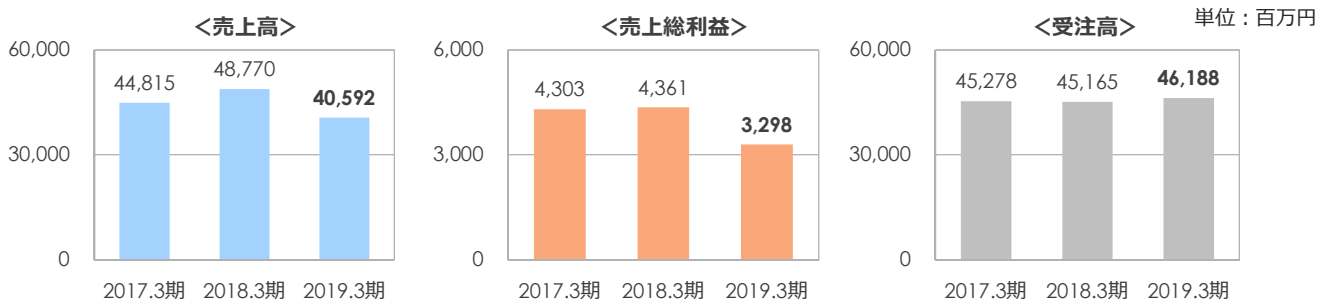
工事名	工事概要
東名沼津IC～富士IC間床版取替工事（平成30年度）	昨年基本契約を締結した個別契約の2件目工事 3橋（5400m）うち1橋はMuSSL工法で施工
中国自動車道大谷橋他2橋床版取替工事	床版取替 約3200m2他、大谷橋は半断面施工で計画
北陸自動車道魚津～黒部間構造物更新工事（平成29年度）	6000mの床版取替工事他、切土、盛土の修繕工事等

建築事業

業界環境

- 堅調な企業業績に支えられた民間建設投資の発注増加
 - ― 企業収益の好況等を背景に、民間建設投資は底堅く推移し市場環境は活況
 - ― 建設資材価格は徐々に上昇、物流費については人員不足から急速に高騰

業績推移



- 繰越工事及び当期受注高の期ずれ等により売上高が減少、売上総利益は競争激化等による工事採算の低下等により前年同期より利益率低下（8.9%→8.1%）
- 失注や発注時期の期ずれ等があるも、本社ビル、学校施設及び特養施設の新規受注等により前年より約10億円増加

大型受注案件（受注金額上位3件）

工事名	工事概要
某本社ビル新築工事	S造8階 基準法床面積10,333㎡
某医療大学新築工事	PCaPC工法 5階 基準法床面積10,398㎡
社会福祉施設新築工事	S造4階 基準法床面積約7,111㎡

貸借対照表

連結貸借対照表の主な項目

(単位：百万円)

	2017.3期 実績	2018.3期 実績	2019.3期 実績	コメント
資産合計	77,306	83,296	90,196	
流動資産	60,263	65,865	69,796	・工事竣工に伴う入金等により現金預金が2,361百万円増加
現金預金	15,049	12,440	14,802	・工事竣工により、受取手形・完成工事未収入金等が2,416百万円、電子記録債権が394百万円それぞれ増加
受取手形・完成工事未収入金等	38,161	44,749	47,560	
固定資産	17,043	17,430	20,400	・賃貸用建物の取得、工所用機材の購入等により有形固定資産が1,321百万円増加
有形固定資産	12,232	12,073	13,394	
無形固定資産	217	196	176	・長期繰延税金資産の計上等により投資その他の資産が1,667百万円増加
投資その他の資産	4,593	5,161	6,828	
負債合計	52,583	54,980	54,755	・買掛債務の支払により、支払手形・工事未払金等が263百万円、電子記録債務が1,109百万円それぞれ減少
流動負債	42,254	44,742	44,143	・工事竣工等によるJV取下心の入金により預り金が2,213百万円増加
固定負債	10,328	10,237	10,611	
純資産合計	24,722	28,316	35,441	・親会社株主に帰属する当期純利益7,918百万円を計上、配当金853百万円を支出
株主資本	23,306	26,582	33,402	・旧工場跡地売却により土地再評価差額金が252百万円増加
その他包括利益累計額	1,416	1,733	2,038	
負債純資産合計	77,306	83,296	90,196	

キャッシュ・フロー

連結キャッシュ・フローの主な項目

(単位：百万円)

	2017.3期 実績	2018.3期 実績	2019.3期 実績	コメント
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,248	△3,049	7,170	
税金等調整前当期純利益	3,473	5,197	8,831	
減価償却費	711	667	768	
退職給付に係る資産の増減	6	△141	△20	
退職給付に係る負債の増減	241	237	192	・営業収益の積上げ
工事損失引当金増減	31	744	△776	・工事竣工による売上債権の増加
売上債権の増減	△2,860	△6,606	△2,858	・買掛債務の支払による仕入債務の減少
たな卸資産の増減	△1,289	△315	404	
仕入債務の増減	2,419	△1,028	△1,366	
未成工事受入金の増減	1,602	△248	△354	
その他営業活動フロー	699	△580	3,920	
法人税等支払額	△787	△975	△1,570	
投資活動によるキャッシュ・フロー	△811	△535	△1,030	
有形固定資産取得	△801	△581	△1,228	・賃貸用建物の自家建設等による有形固定資産の取得
その他投資活動フロー	△9	45	197	
財務活動によるキャッシュ・フロー	13	977	△3,774	
短期借入金純増減	990	1,728	△2,587	
長期借入れによる収入	—	—	300	・短期借入金の返済
リース債務返済による支出	△92	△83	△66	・増配により配当金の支払額が増加
自己株式の取得による支出	△213	△0	△0	
配当金支払額	△379	△568	△853	
その他財務活動フロー	△291	△97	△567	
現金及び現金同等物期末残高	15,049	12,440	14,802	

中期経営計画2016の振り返り～数値計画

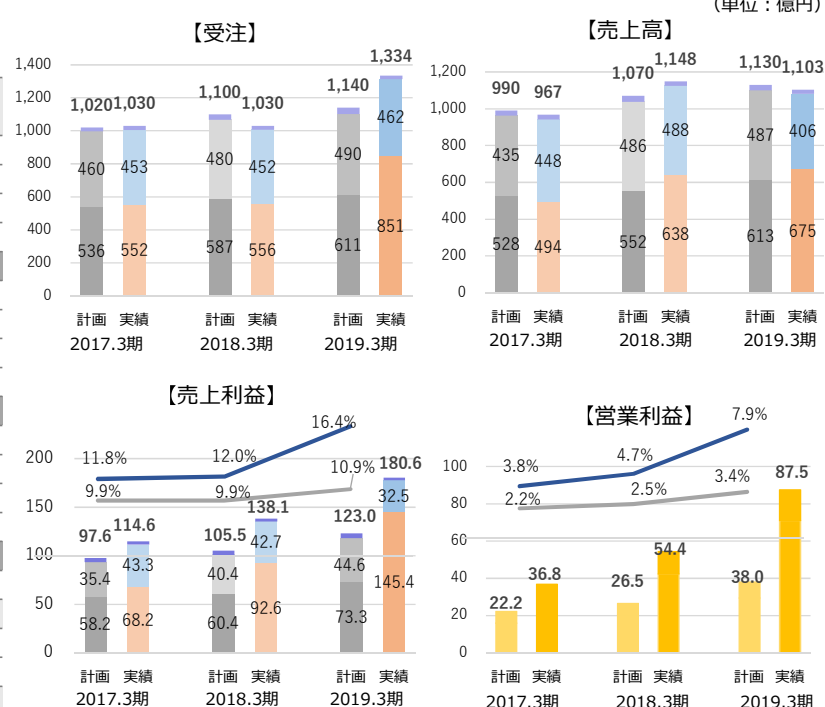
土木の大幅な利益増加により5期連続最高益更新

- 土木事業が計画比で受注高、売上高が増加、各利益項目は大幅超過達成
- 土木事業の利益改善により営業利益率が4.5%ポイント上昇
- 営業利益と同様に経常利益率も4.7ポイント上昇

		(単位：百万円)					
		2017.3期 実績		2018.3期 実績		2019.3期 実績	
受注	土木	55,192		55,573		85,066	
	建築	45,278		45,165		46,188	
	製造	1,819		1,638		1,551	
	兼業	723		634		644	
	合計	103,013		103,012		133,451	
売上高	土木	49,356		63,798		67,489	
	建築	44,815		48,770		40,592	
	製造	1,819		1,638		1,551	
	兼業	723		634		644	
	合計	96,715		114,841		110,279	
売上利益	土木	13.8%	6,823	14.5%	9,257	21.5%	14,535
	建築	9.7%	4,329	8.8%	4,272	8.0%	3,252
	製造	2.6%	46	1.1%	18	3.3%	51
	兼業	36.0%	260	42.8%	271	34.1%	219
	合計	11.8%	11,460	12.0%	13,819	16.4%	18,059
販売費及び一般管理費		8.0%	7,773	7.3%	8,378	8.4%	9,311
営業利益		3.8%	3,687	4.7%	5,440	7.9%	8,747
営業外収益			209		144		279
営業外費用			441		238		237
経常利益		3.6%	3,454	4.7%	5,347	8.0%	8,789

※売上利益は、内部取引調整後の数値を表示

株式会社ピーエス三菱



12

中期経営計画2016の振り返り ～経営指標・資本政策

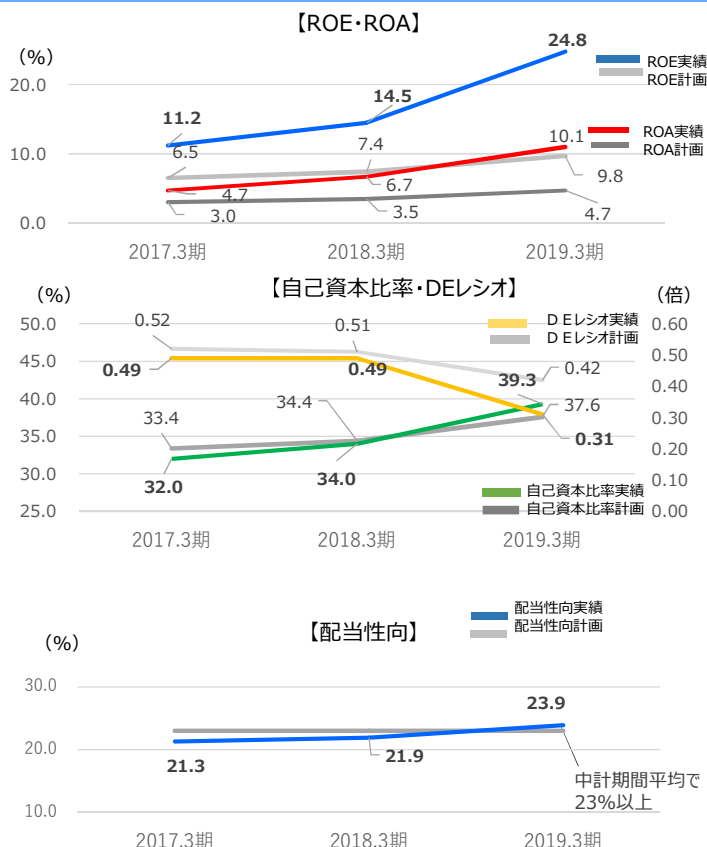
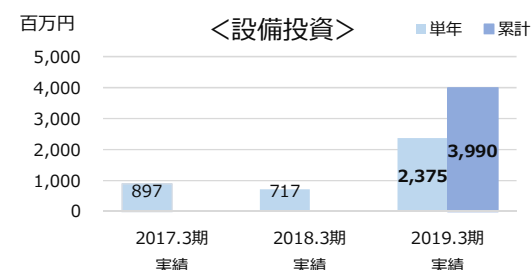
財務体質の強化と資本効率の向上を図り利益の蓄積により経営基盤が強化

経営指標/資本政策

- 土木事業の大幅な利益改善により増配
 - 最終年度は、ROE24.8%、ROA10.1%と期初計画値を大きく上回った
 - D/Eレシオ（有利子負債÷株主資本） 0.31倍
 - 自己資本比率 39.3%
 - 配当は、当初18円から32円と14円増配（うち特別配当12円）し、配当性向は、3か年平均で22.4%※となった
- ※繰延税金資産計上による法人税等調整額の影響を除く

設備投資

- 企業価値の最大化へ向け、PC技術を応用した新工法・新技術の開発、工場の再構築、情報関連投資、ストック案件取得等に活用



株式会社ピーエス三菱

13

中期経営計画2016の振り返り ～トピックス

海外事業の取り組み

- ミャンマーでJVによる橋梁工事の受注
- 人員体制整備の充実
- スリランカにて6年ぶりに海外橋梁建設工事を施工

働き方改革への対応と従業員満足度向上への取り組み

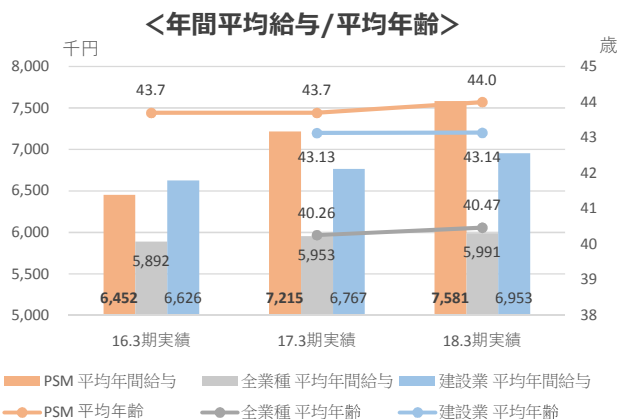
- 「働き方改革 アクションプラン・ステップ1」の取り組み
 - 総労働時間の削減、週休2日の推進、ハラスメント対策、従業員満足度調査結果の分析・対策、“Smart Work Meeting”の設置
- 賃金・手当等の大幅な改善
 - 定昇+ペアの平均3%以上アップ、役職手当の増額、育英手当の新設等

兼業事業へ本格始動

- 定期借地権による賃貸事業に着手
 - 某学校法人の所有する土地を定期借地権で借り上げ、地上11階建、延べ面積約6,075㎡の学生寮と店舗等の複合ビルの建設プロジェクトに着手



スリランカ4橋工事



中期経営計画2016の振り返り ～方針・戦略

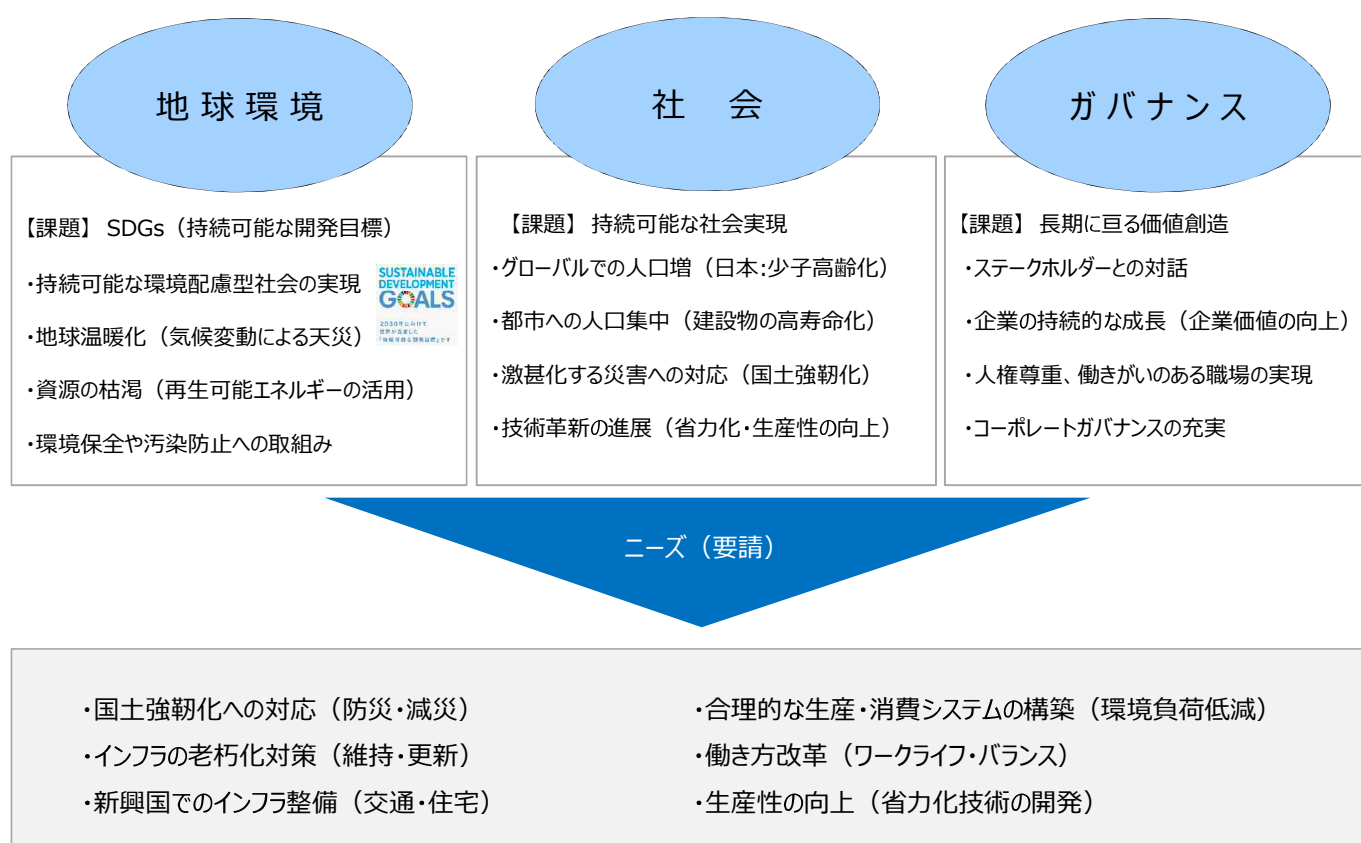
組織体制の整備により、事業シフトの対応も進展、新規賃貸事業にも着手

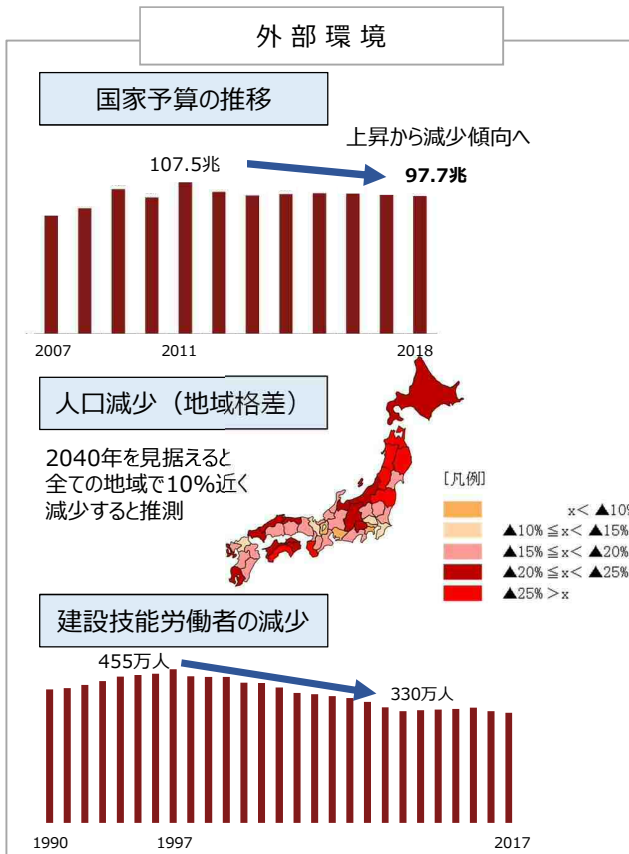
	部 門 方 針	評価コメント	評価
土木部門	高速道路の大規模更新需要等、主力分野の変動に対応出来る事業体制を整える	– 新設大型工事が無事竣工し、設計変更を確実に獲得 – 大規模更新・メンテ事業へのシフトが進み、対応充実 – 2016～2018年度のPC市場シェアはトップクラスを維持	– ○ – ○ – ○
建築部門	勝ち残りのための競争力を強化する	– PC元請けでの大型案件が竣工、収益に貢献 – ストック事業では、定期借地権による賃貸事業を開始 – 受注で苦戦、PC元請け受注は伸び悩み	– ○ – ○ – △
海外部門	現地事務所・既存工場・現地合併企業を含めた包括的な体制整備を行い、現地パートナー企業と連携を強化し市場拡大を目指す	– ミャンマー国に事務所を開設、JVで受注を獲得 – 増員により体制整備が充実 – 外国人エンジニア要員の確保は目標未達	– ○ – ○ – △
技術部門	転換期において、将来における技術的優位性の確立に向けた取組みを推進する	– 当社独自の床版継手工法が、施工物件で採用 – 半断面床版取替工法は、NEXCOと共同特許を取得 – 技術提案力の向上は、国交省案件で目標未達	– ○ – ○ – △
管理部門	事業規模、事業展開を見据え、人財、ICT、グループ戦略での取組みを推進する	– 増員計画は計画通りに進捗、研修制度も拡充 – 働き方改革実行委員会を設置し、活動開始 – 所得水準の引上げ及び各種手当他の処遇改善 – ICTを活用したシステムによる業務改革を実施	– ○ – ○ – ○ – ○

2. 中期経営計画2019

16

取り巻く事業環境 ～経営環境認識





当社の主な課題

企業価値の創造

- ・安全、強靱で持続可能なインフラ整備
- ・ステークホルダーとのエンゲージメント
- ・ESG（非財務情報）開示の充実

働き方改革

- ・長時間労働対策
- ・週休2日の実現
- ・多様な働き方の推進

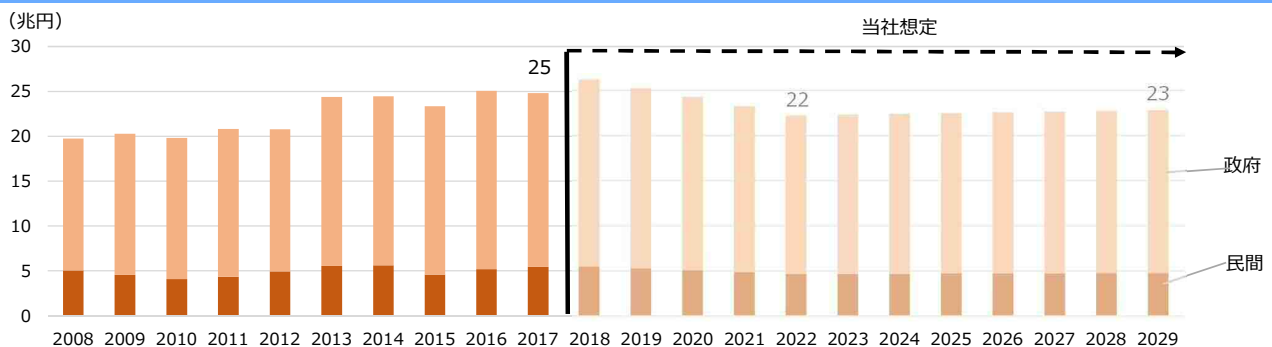


現場力の向上

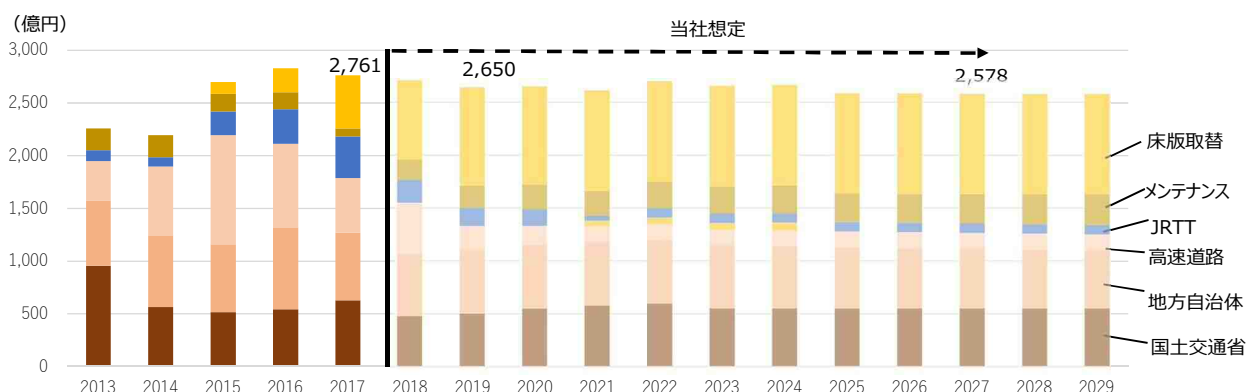
- ・安全・品質・CSRの強化（不具合・不祥事の撲滅）
- ・成長分野での受注力・施工能力アップ（大規模更新・PC建築・メンテナンス・海外事業）
- ・収益力の更なる向上（生産性・業務効率の改善）

取り巻く事業環境 ～土木市場・PC土木市場

土木市場は、2018年度にピークとなり、2022年度には22兆円まで減少、2029年度では23兆円と想定

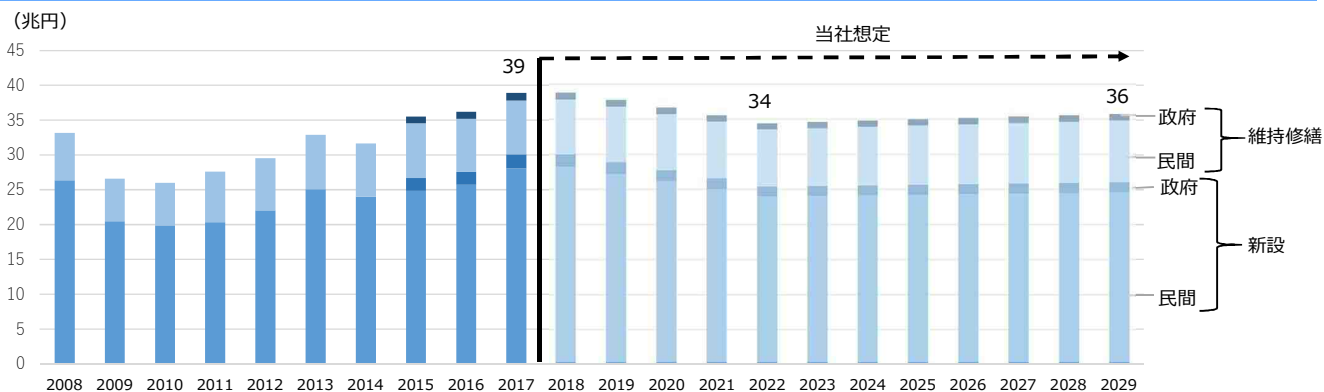


PC土木市場は、新設橋梁の減少とともに維持・補修事業が本格化と想定

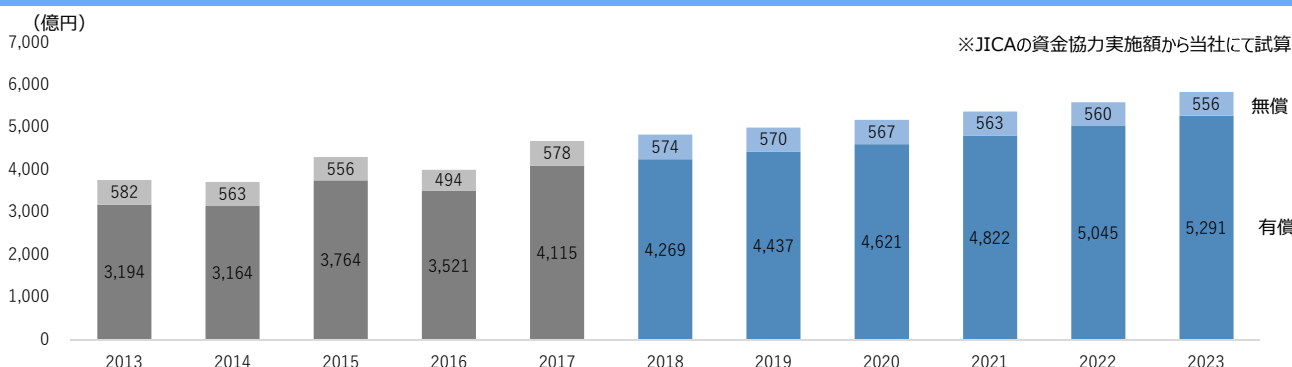


取り巻く事業環境 ～建築市場・海外市場

建築市場は、オリンピック関連需要が終息し、2022年度には34兆円まで減少、その後微増の36兆円と想定



ODA（有償・無償）による海外市場は、右肩上がりを想定



長期経営ビジョン～10年後の目指す姿 ～基本方針

経営理念

「人と自然が調和する豊かな環境づくりに貢献する」

高度な社会資本の充実に寄与するために、常に新しい技術の開発にチャレンジし、建設事業を通じて安全で高品質な建設生産物を供給する。また、地球環境保全に貢献するため公害防止と自然保護に積極的に取り組む

行動指針



長期ビジョン (10年後の目指す姿)

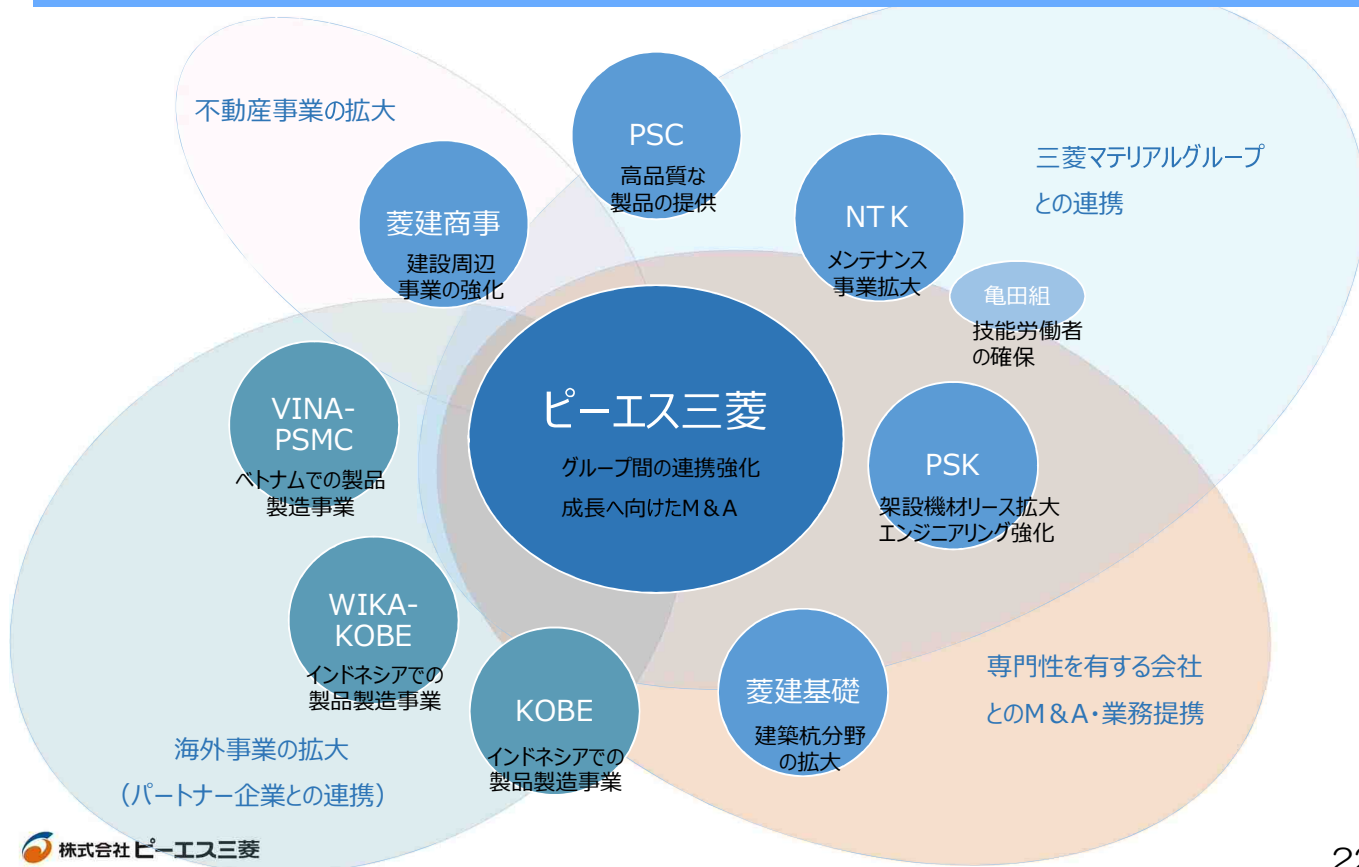
社会基盤の強靱化にPC技術を核とした
省人・省力化施工で貢献する企業集団となる

～ 信頼 ～ 成長 ～ 挑戦 ～ 連携 ～

- I いいものを作り続ける
- II 成長分野をリードする
- III 新しいフィールドへ挑戦する
- IV グループの強みを活かす

長期経営ビジョン～10年後の目指す姿 ～グループ連携

グループ各社の連携を強化し、成長に向けたM&Aにより、グループ経営基盤を拡大



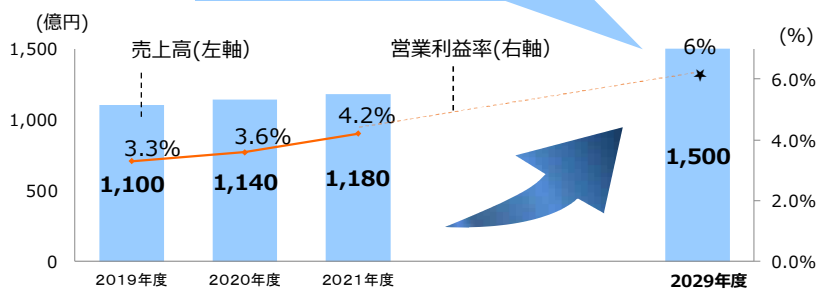
22

長期経営ビジョン～10年後の目指す姿 ～数値目標他

10年後の目指す数値計画

- 受注・売上規模**1500億円**を目指す
- 営業利益率**6%以上**を目指す

- 連結受注・売上規模 1500億円
- 単体受注・売上規模 1310億円
- 連結営業利益 90億円 (6.0%)



優先的に取組む課題 (SDGs)

- 建設業を通じた社会への貢献
- 職場環境の改善と「働き方改革」の実行
- 「PC技術」を活用した社会的価値の創造



ジェンダー平等を達成し、全ての女性及び女子の能力強化を行う



包摂的かつ持続可能な経済成長及び全ての人の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用を促進する



強靱（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る



包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する



持続可能な生産消費形態を確保する



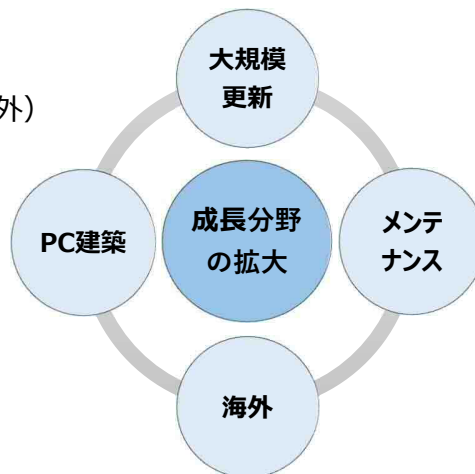
気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる

23

中期経営計画2019 ～全体概況

中期経営計画2019の基本方針

テーマ	さらなる収益基盤の強化と変革による成長分野の拡大
基本方針	■「安全」・「品質」・「CSR」の徹底で、社会より高い信頼と評価を得る ■省人・省力化施工の開発と改善を推進し生産性を向上させ、収益基盤を強化する ■成長分野（大規模更新・PC建築・メンテナンス・海外）への取組みを強化し、事業領域を拡大する ■多様な人財の確保・育成を行い職場環境を活性化し、各人の能力向上を図る ■働き方改革を加速させるとともに、IoT・ICTを最大限活用し業務効率を高める ■技術開発・人財・設備への投資を充実させ、他社との差別化を図る ■他業種との協力、協業を推進し、建設周辺事業での収益源の多様化を進める



中期経営計画2019 ～事業方針・戦略

	土 木 事 業	建 築 事 業
方針	大規模更新・修繕工事を新設工事と並ぶ主力事業として発展・成長させる	※ PC建築 の拡大とエリア展開を進め、受注の強化と収益力の向上を目指す ※ PC建築：主たる構造がプレストレストコンクリート(PC)構造である建築物またはプレキャスト部材(PCa)を用いた建築
戦 略	大規模更新・メンテナンス分野において多様化する工事内容への体制強化に努める	PC技術を核とした元請および設計施工案件の取組みを強化することで受注の拡大を図る
	工事の生産性と利益率を向上させる施策を立案し実行する	エリアごとのマーケットを見極め、要員を機動的にシフトすることで受注の強化を図る
	新設PC橋梁の受注に注力し、PC業界におけるトップランナーの地位を確固たるものにする	現場力を磨き、コスト競争力をあげて顧客満足度の向上を図る
主なアクション	・ 専門性を有する企業との戦略的な連携を図る ・ 要員の適正配置とICTの活用で生産性を向上させる ・ 工事成績を向上させ受注確度を高める	・ 設計・営業・工事が一体となり企画提案力を強化する ・ 需要エリアの選定と要員の補強・育成・強化を実施する ・ 要員の多能化を進めるとともに協力会社との連携を密にする

中期経営計画2019 ～事業方針・戦略

	海外事業	兼業事業
方針	海外パートナーの新規開拓と既存パートナーとの連携強化により、海外事業の拡大を目指す	建築事業の裾野を広げる為、保有・賃貸・管理・修繕などの建築周辺事業を推進する
戦略	海外パートナーとの戦略的アライアンスにより営業網の拡大を図る	建築周辺事業のプロパティマネジメント及びビルメンテナンスの推進とリニューアル工事の拡大を図る
	ODA案件のPC橋梁をターゲットにアジア地域を中心に受注拡大を目指す	賃貸ポートフォリオの多様化推進を図り、住宅・事務所・医療福祉・倉庫等の新規開発をする
	建築分野の営業強化により、プレキャスト部材の受注を突破口として、建築事業への参入を図る	住宅及び店舗等の既存賃貸事業の安定的収益基盤を確立する
主なアクション	・ 事業拡大につながる、新規海外パートナーを選定する ・ 新設営業拠点の増設をし、海外ネットワークを充実させる ・ 建築部門との連携により、PCa部材の営業展開を進める	・ 3か年での投資額は20億円を目処とする ・ 投資地域は首都圏を中心とし、地方主要都市もターゲットとする

中期経営計画2019 ～事業方針・戦略

	製造事業（国内）	関係会社
方針	安定した生産トン数の確保とコスト低減による価格競争力の向上を図る	PSK 架設機材リース業界で、中心的な役割を果たし、戦略性のある機材開発や新製品の開発を進める
戦略	グループ連携と営業力強化により、入荷トン数の拡大を図る	NTK 補修分野での顧客ニーズを捉えた技術力・施工力の強化を図る
	設備更新による生産効率の向上を図り、更なるコスト削減に取り組む	
	製造事業（海外）	
方針	海外企業との戦略的なアライアンスにより、顧客を増やし受注を拡大する	PSC 設備投資の拡大と品質管理の徹底により、高効率の工場運営を行い、収益力を向上させる
戦略	ODA案件において、日系企業としての技術力、品質管理力を活かした受注の拡大を図る	菱建商事 今まで培ってきた経営資源を活かし、不動産投資によるストック事業を拡大していく
	海外パートナーの営業ネットワークを活用して、ローカル案件の受注拡大を目指す	菱建基礎 同業他社とのアライアンス、M & Aを進め、基礎杭での事業領域を拡大する

中期経営計画2019 ～事業方針・戦略

	技 術 開 発	人 財 ・ 組 織
方針	成長分野の強化と新領域への挑戦により優位性を向上させる	経営基盤としての人財、情報技術、企業ブランドの強化を図り、活力ある企業集団を目指す
戦 略	成長分野（大規模更新・PC建築・メンテナンス・海外）の技術開発を強化する	多様な人財が活躍できる抜本的な人事制度改革を実行する
	生産性向上に向けた技術開発を推進する	働き方改革の推進等により職場環境の向上を目指す
	環境負荷低減に向けた技術開発を推進する	グループ連携の推進と企業ブランドの向上を図る
主なアクション	- 海外パートナーとの連携により、当社技術の海外展開に向けた開発に着手する - 異業種との協業を深め、ICTを活用した生産性向上のための技術開発を迅速化する - 低炭素型コンクリート、高性能コンクリートの技術開発を進める	- 多様な人財にマッチした新たな資格、処遇制度を導入する - ICT・IoT・AI技術の活用による生産性向上と業務効率化を図る - 情報開示の充実とIR活動により認知度アップに取り組む

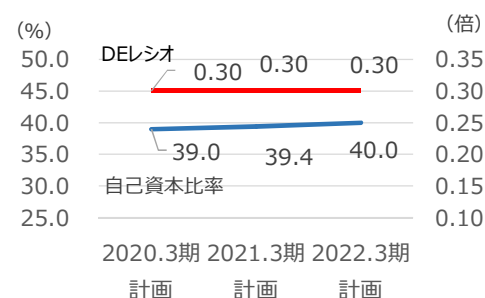
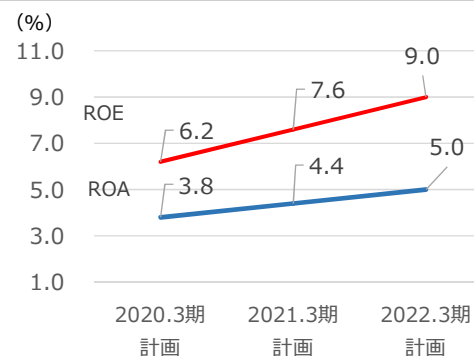
中期経営計画2019 ～数値計画

■連 結			(単位：百万円)		2020.3期 計画		2021.3期 計画		2022.3期 計画			
受 注 高		土 木			62,800		64,900		68,200			
		建 築			48,000		48,500		49,000			
		製 造			1,500		1,900		2,000			
		兼 業			700		700		800			
		合 計			113,000		116,000		120,000			
売 上 高		土 木			62,600		63,600		66,800			
		建 築			45,000		47,900		48,500			
		製 造			1,700		1,800		1,900			
		兼 業			700		700		800			
		合 計			110,000		114,000		118,000			
売上利益		土 木		13.1%	8,200		13.4%	8,500		13.5%	9,030	
		建 築		9.1%	4,100		9.1%	4,340		9.6%	4,680	
		製 造		5.9%	100		8.9%	160		9.5%	180	
		兼 業		14.3%	100		14.3%	100		13.8%	110	
		合 計		11.4%	12,500		11.5%	13,100		11.9%	14,000	
販売費及び一般管理費					8.1%	8,900		7.9%	9,000		7.7%	9,100
営業利益					3.3%	3,600		3.6%	4,100		4.2%	4,900
経常利益					3.2%	3,500		3.6%	4,100		4.1%	4,800
当期純利益					2.0%	2,200		2.5%	2,800		2.9%	3,400
■単 体					2020.3期 計画		2021.3期 計画		2022.3期 計画			
受 注 高					101,300		102,700		105,700			
売 上 高					97,000		101,100		105,200			
売上利益					10.3%		10,000		10.4%		10,500	
販売費及び一般管理費					7.4%		7,200		7.1%		7,200	
営業利益					2.9%		2,800		3.3%		3,300	
経常利益					3.2%		3,100		3.5%		3,500	
当期純利益					2.1%		2,000		2.5%		2,500	

中期経営計画2019 ～資本政策・経営指標

経営資源の最適化（有効活用）を目指す

資本政策	安定した財務基盤の確保を維持しつつ「成長分野の拡大」に向けた投資を実行する ・営業利益率 4.2%（最終年度） 生産性向上による収益の改善を目指す ・ROE 9.0%以上（最終年度） ・ROA 5.0%以上（最終年度） 株主資本コストを上回るROEの実現を目指す
財務の健全性	事業特性やリスクを踏まえ更なる財務基盤の強化と自己資本の充実を目指す ・自己資本比率 40%以上 ・DELシオ 0.30倍以下
投資	・大規模更新事業等に向けた設備投資・不動産投資 70億円 ・成長分野及び生産性向上への研究開発投資 20億円 ・人財の確保及び育成のための人財投資 10億円 ・その他 M&A等
株主還元 配当性向	継続的かつ安定的な配当を実施する ・配当性向 25%～30%



MEMO

3. 2020年3月期 業績予想

32

業績予想

連結業績予想

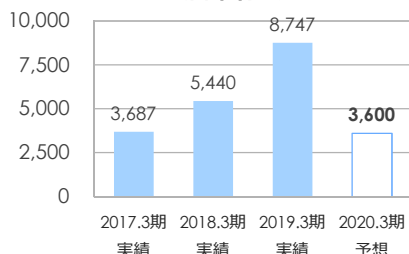
(単位：百万円、%)

	2018.3期		2019.3期		2020.3期		コメント
	実績	前年比	実績	前年比	予想	前年比	
売上高	114,841	18.7	110,279	△4.0	110,000	△0.3	大規模更新事業の工期の長期化影響により土木事業の減収
売上総利益	13,819	20.6	18,059	30.7	12,500	△30.8	土木事業の工事採算が減少
営業利益	5,440	47.6	8,747	60.8	3,600	△58.8	売上総利益の減少
経常利益	5,347	54.8	8,789	64.4	3,500	△60.2	
親会社株主に帰属する当期純利益	3,844	44.9	7,918	106.0	2,200	△72.2	
1株当たり年間配当金 (円)	18.0		32.0		20.0		普通配当20円

<売上高>



<営業利益>



<経常利益>



33

セグメント別業績予想

セグメント別売上高・売上総利益・受注高

(単位：百万円、%)

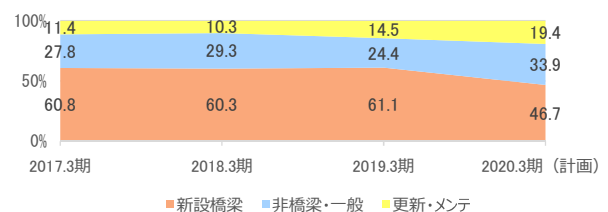
		2018.3期	2019.3期	2020.3期		コメント
		実績	実績	予想	前年比	
売上高	土木事業	63,798	67,489	62,800	△6.9	・土木事業は、大規模更新事業の工事進捗を保守的に見込み減収
	建築事業	48,770	40,592	45,000	10.9	
	製造事業	1,638	1,551	1,500	△3.3	
	その他兼業事業	634	644	700	8.5	
	合計	114,841	110,279	110,000	△0.3	
売上総利益	土木事業	9,178	14,118	8,200	△41.9	・土木事業は、工事採算の減少、設計変更等による回復要因を保守的に見立て減少 ・建築事業は、他社との競争激化等となるも工事採算の回復による増益予想
	建築事業	4,361	3,298	4,100	24.3	
	製造事業	3	207	100	△51.8	
	その他兼業事業	304	304	100	△67.1	
	調整額	△28	131	-	-	
	合計	13,819	18,059	12,500	△30.8	
受注高	土木事業	55,573	85,066	62,800	△26.2	・業界環境は引き続き好況であるも、土木事業が前期受注実績からの反動により受注減を予想
	建築事業	45,165	46,188	48,000	3.9	
	製造事業	1,638	1,551	1,500	△3.3	
	その他兼業事業	634	644	700	8.7	
	合計	103,012	133,451	113,000	△15.3	

工事種別の変化と利益分析

土木事業の工事種別の割合が変化

- 2017年3月期～2019年3月期では新設橋梁が60%を占めていたが、今年度計画では47%と非橋梁・メンテナンス、大規模更新ヘシフトが進む
- 非橋梁・メンテナンス、大規模更新については、生産性向上等の施策の実行により、利益率向上を目指す

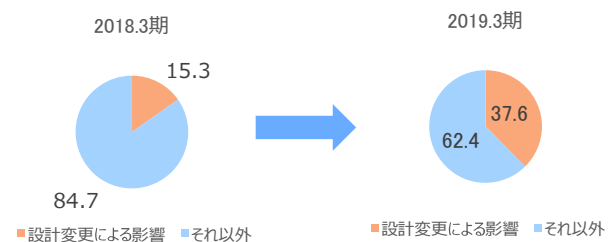
土木工事区分割合（売上高）



土木事業の設計変更獲得

- 品確法により各発注機関から設計変更ガイドラインが整備され、NEXCOは2018年度から本格的に活用開始
- 2019年3月期は大型工事の竣工が重なり、厳しい工期を遵守する等の取り組みが大幅増益に貢献
- NEXCO発注の大型新設橋梁案件において、工事竣工時での設計変更獲得による工事利益への影響割合が15.3%から37.6%と大幅増加

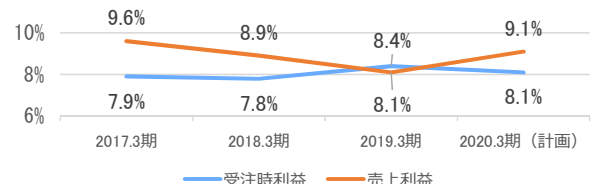
設計変更影響割合（利益）



建築事業の利益率の改善

- 建築事業の利益率は、低採算物件の竣工により改善傾向が進み、受注時利益率も2019年3月期より回復傾向となる

建築利益率の改善



Appendix. ご参考

36

プレストレストコンクリート（PC）技術とプレキャスト（PCa）技術とは

プレストレストコンクリート（PC）とは

PCは「あらかじめ（プレ）応力（ストレス）を与えられたコンクリート」のことです

- コンクリートの最大の弱点(引張には弱い)を克服することができます
- 圧縮する力を与えることで、大きな引っ張る力が作用してもひび割れを制御することができます
- 上記により、柱や梁を細くしたり空間の距離を大きく取ることができます



プレキャスト（PCa）とは

高強度のコンクリートを使用し、あらかじめ工場で製作したコンクリート部材です

- 工場で生産されるので、高品質・高精度で、高耐久を有しております
- 現場で型枠を組み施工した場合より周辺の環境に優しい工法です
- 工場で部材を製作する為、現場作業の省力化・スピード化が図れます



37

グループネットワーク

ピーエス三菱グループ（主要国内5社）



株式会社ピーエスケ



PC工事における機材の企画・設計・製作・賃貸・販売、資材の製造・販売およびこれらの運用・活用に関するエンジニアリング

株式会社ニューテック康和



道路・鉄道・港湾等の構造物のメンテナンス、リニューアル

ピー・エス・コンクリート株式会社



PC製品の製造販売

菱建商事株式会社



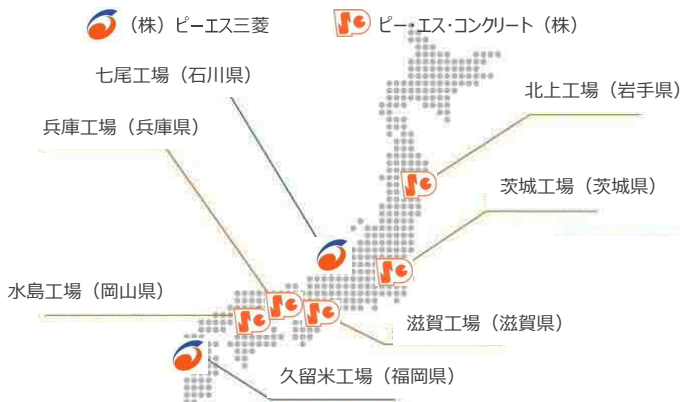
建築資材販売、物流、不動産関連など

菱建基礎株式会社



土木・建築構造物の基礎工事など地下分野の総合専門工事

国内工場ネットワーク



海外ネットワーク



38

高速道路 大型新設橋梁 が竣工

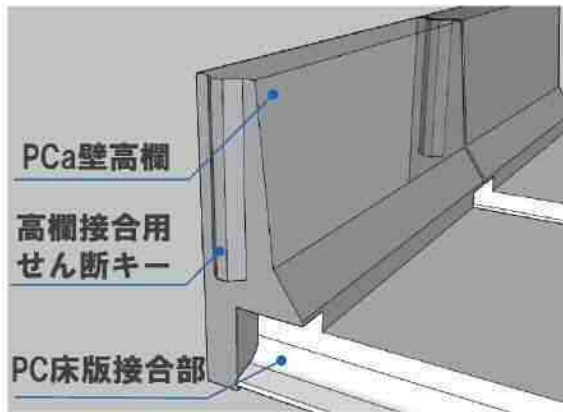
道路ネットワークの多重化に向けた整備が全国的に進められ、渋滞緩和をはじめ、事故・自然災害時のルート確保が求められています。



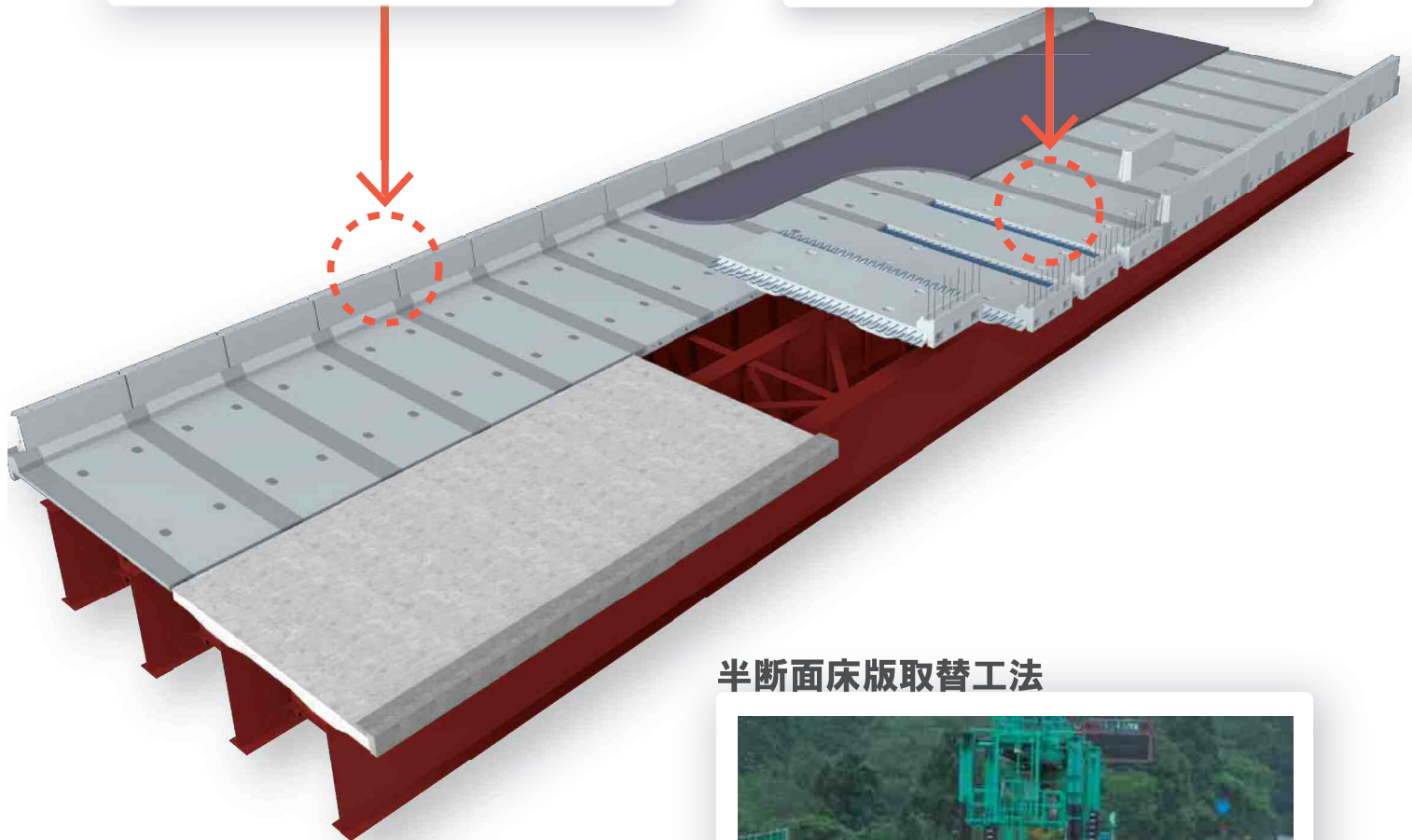
39

ピーエス三菱の床版取替技術

フルキャスト壁高欄



MuSSL工法



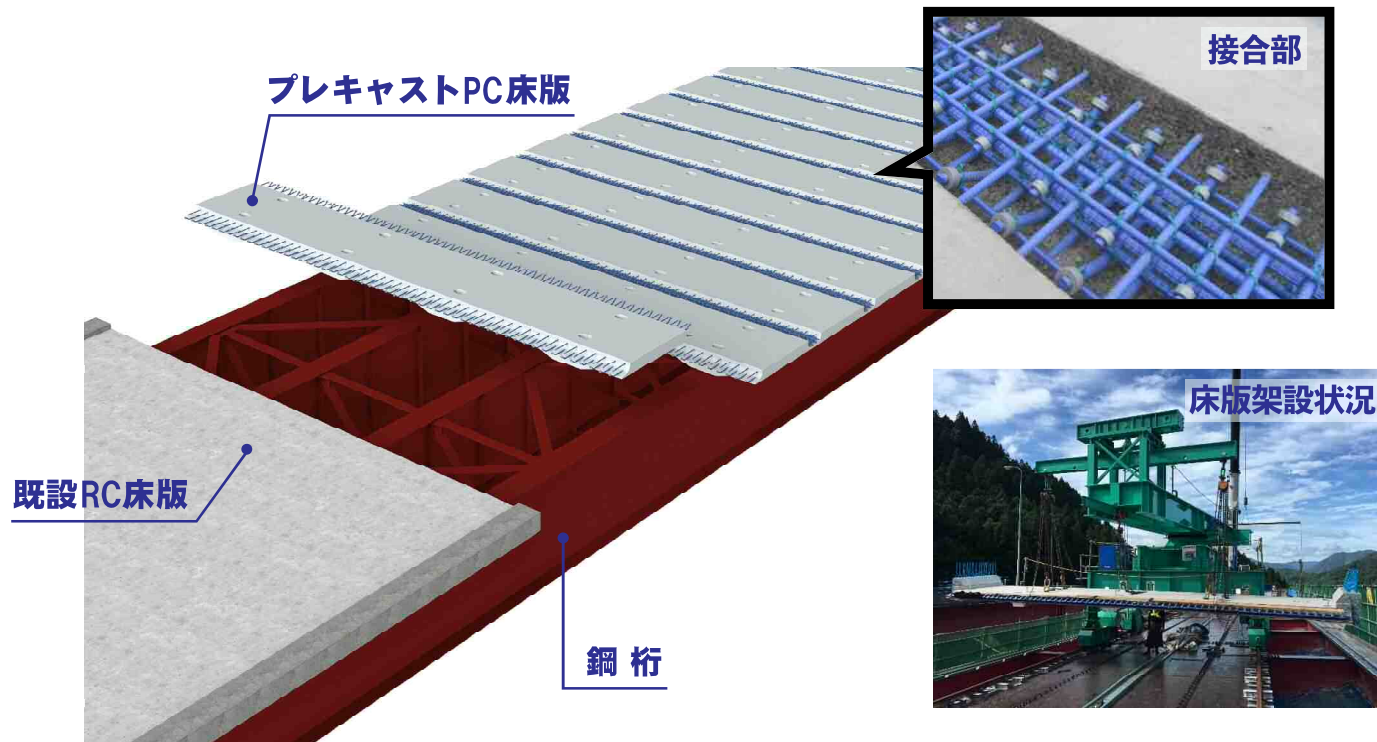
半断面床版取替工法



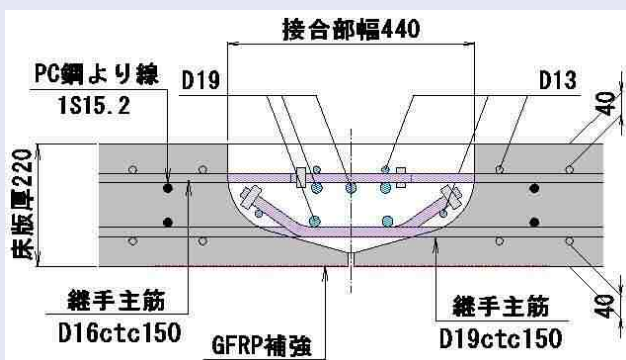
MuSSL工法

生産性向上を目指したプレキャストPC床版の高耐久性継手構造

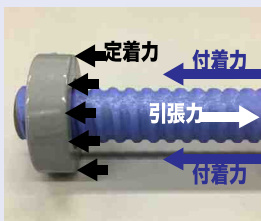
MuSSL工法は、あご付きタイプのプレキャストPC床版に適用可能な継手工法です。接合部は2m毎に配置され、その施工は狭隘な版下空間での人力作業を必要とします。接合部の底型枠が不要な本工法は、安全性と生産性の向上に有効です。



継手構造



定着構造



高付着型エポキシ樹脂塗装鉄筋 円形ナット (FCD450-10) PC版架設途中で横方向筋が移設できます

接合部鉄筋の組立

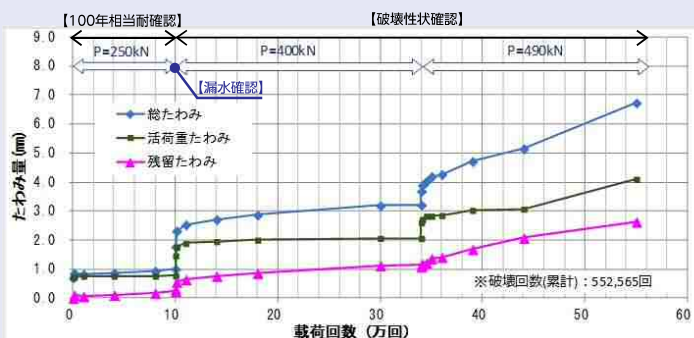


疲労耐久性

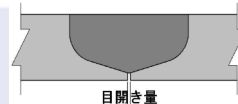
輪荷重走行試験



漏水確認試験



- ・250kN载荷時の目開き量は0.05mm以下
- ・6時間の水張り下面への漏水無し
- ・PC版部の押抜きで破壊(継手部で破壊せず)

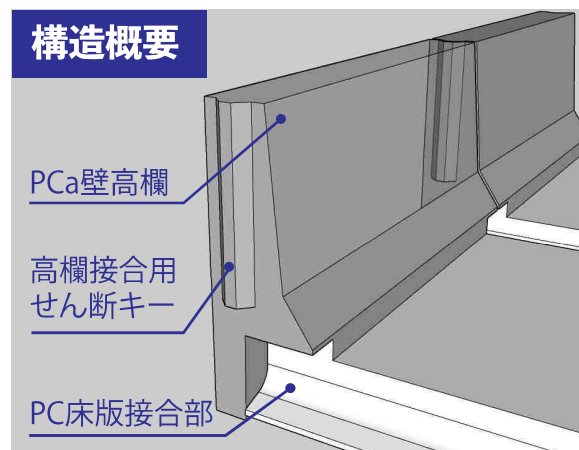


フルキャスト壁高欄

床版取替工事の急速化を実現する床版同時架設タイプのプレキャスト壁高欄

床版取替工事では、床版そのものの施工はもとより、道路両端に設置される壁高欄の施工についても工期短縮が求められております。本壁高欄は、現場での施工を極限まで省力化した「プレキャスト(PCa)壁高欄」です。

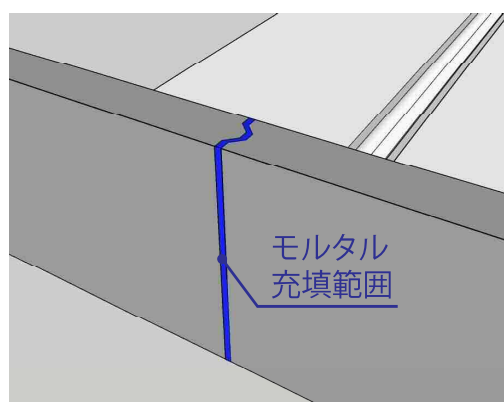
構造概要



1 PC床版の架設前に壁高欄を構築

2 高欄接合部はせん断キーのみで接合

本 PCa 壁欄は、PC床版にあらかじめ壁高欄を構築して架設することで、現場での壁高欄施工を極限まで省力化できる工法です。高欄接合部はせん断キーを用いて荷重を伝達する構造とし、架設後に目地部にモルタルを充填することで接合が完了します。



高欄接合部のモルタル充填範囲

施工手順

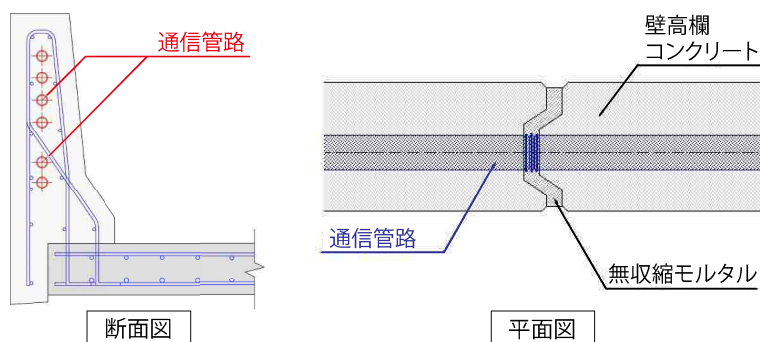
PC床版の製作

PCa壁高欄の製作

現場への運搬および架設

高欄接合部にモルタル充填

施工完了



通信管路の設置に配慮したせん断キー形状

衝突試験 実施状況



衝突試験状況



衝突試験体全景

PCaPC建築の 未来を切り拓く若手

工場生産の部材を現場で組み立てる

「プレキャストコンクリート(PCa)」。

緊張材で圧縮力を加え、引張力に対する弱さを克服する

「プレストレストコンクリート(PC)」。

2つの技術を組み合わせたPCaPC建築を得意とするのが、

ピーエス三菱だ。同社では一般的な建築はもとより、

PCaPC建築特有の意匠性に優れた建築物の設計・施工を

手掛ける。若手は多様な現場経験を重ねながら、

PCaPC建築の未来を切り拓いていく。

コンクリートは圧縮力に強く、引張力に弱い。そのコンクリートに緊張材によってあらかじめ圧縮力を加えれば、引張力に強くできる。それが、「プレストレストコンクリート(PC)」と呼ばれるものだ。その部材を工場で生産して現場で組み立てる建築物が、PCaPC建築である。

その特長を、入社8年目でPC建築部に属する杉浦亮介氏が語る。

「コンクリートと言えば一般に、固い、重い、四角い、という印象かと思います。ところがPCaPC建築には、意匠性が高く、美しいものが多い。コンクリートでありながら、変幻自在という印象です。従来のコンクリートに対する認識とは異なるものだけに、将来性が見込める、と強くひかれました」

小さな断面、大きなスパン 空間自由度の高いデザインが魅力

引張力に対する弱さを克服したPCは鉄筋コンクリート造の建築物とは異なる空間を生み出せる。魅力を語るのは、入社3年目でPC建築部に属する上杉一二三氏だ。

「引張力に弱いという弱点が克服されたことで、部材の断面を小さくしたり、柱と柱の間隔を大きくしたりすることができるようになります。その結果、空間自由度の高いデザインが可能になるのです。そこに魅力を感じています」

杉浦氏や上杉氏らが目下取り組んでいる現場は、川崎市内で建設中の五十嵐電機製作所新本社ビルである。入社25年目で所長を務める石出弘氏以下、東京建築支店の11人体制で工事を進めている。

中途入社10年目で建築工事部で工事主任を務める井口健太郎氏の担当は、安全管理、品質管理、工程管理。「PCaPC建築では柱や梁などを組み上げていくため、自然と高所作業が多くなります。それ



現場の技術陣は、所長の石出弘氏①を筆頭に、工事主任の井口健太郎氏②、工事担当の江里口涼太氏③と杉浦亮介氏④、同じく工事担当のシュレスタ・アティシュ氏⑤と上杉一二三氏⑥、それに設備担当の2人を加えた8人で構成する。これに事務担当の本間直樹氏⑦と船岡卓氏⑧、PC建築担当の野中日向氏⑨を加えた11人体制で工事に臨む

だけに架設工事に関わる安全管理には気を配るとともに、施工時の手戻りや不具合をなくすために、部材製造の段階から施工方法・手順を十分に練り上げて、工事に着工するように心がけています」。

入社7年目で建築工事に属する江里口涼太氏は、躯体工事の現場での調整業務を担う。「現場は“生き物”です。その場で起きた問題を、その場で解決していかなければなりません。そこが、苦勞する点です」。

一例として挙げるのは、壁面が入り組んだ建物の現場で足場をどう組むか、という問題だ。「経験豊富な専門の技能者に相談しながら、仕上げ工事のことも踏まえ、組み方を決めていきます」。

プレキャスト建築は段取りが非常に重要だ。準備に準備を重ねてようやく工事に至り、時には臨機応変の対応を迫られながら、それを乗り越え、完成に向かっていく。

あらゆる建築物にPCaPC建築の可能性を探れる会社

入社2年目で建築工事に属するシュレスタ・アティシュ氏は、そうした現場作業の流れが分かるようになってきた。いまの役割は現場の作業環境を整えること。記録用の写真撮影も、仕事のひとつだ。「作業の流れが分かってきたので、記録写真を撮るタイミングを自ら判断できるよ



2018年8月、発注者を招き開催した工場見学会



五十嵐電機製作所新本社ビルの完成予想図。地上4階建てのPCaPC建築で、2019年2月完成を目指す

うになりました」。

現場には常駐でないまでも事務担当も欠かせない。各種の式典を計画・挙行したり、手続きに必要な書類を作成したり、支払い・請求事務を済ませたりするなど、現場の最前線を支える。これらを担当するのが、東京建築支店管理部事務管理グループに属する入社3年目の本間直樹氏と新人の船岡卓氏だ。本間氏はPCaPC建築の現場をこうみている。「整理整頓されていて、騒音が少ない。現場の進み方は非常に速いと感じます」。

これもまた、PCaPC建築の現場ならではの特徴だ。部材を工場で生産する分、現場で施工しなければならない工種を少なくできる。それが、現場に整然とした感じをもたらしている。

所長の石出氏は呼び掛ける。「建築の知識は幅広く勉強し続けることが大事です。その中で特化したい分野があれば、深く追求していけばいい。あらゆる建築を手掛け、とりわけPCaPC建築を得意とする当社はそういう意味で、将来の可能性を多様な角度から探っていける会社です」。

株式会社ピーエス三菱

● 会社情報

資本金 42億1850万円
売上高 1148億4100万円(2018年3月期、連結)
社員数 1725名(2018年3月期、連結)
創業 1952年
事業内容

- ① プレストレスト・コンクリート工事の請負ならびに企画、設計、施工監理
- ② 建築一式工事、土木一式工事の請負ならびに企画、設計、施工監理
- ③ 土木建築構造物の維持、補修に関する事業 他

● 採用情報

採用職種 総合職

【技術系】建築・土木施工管理、設計および技術開発、建築設備など

【事務系】総務、経理、事務管理、営業など

採用実績大学 全国の国立私立大学・大学院および高等専門学校

採用実績学科 【技術系】建築、土木、機械、電機、環境工学、材料系学科 他

【事務系】学部・学科問わず

勤務地 全国および海外(転勤あり)

2018年採用実績 44名

2019年採用予定数 40名

初任給 修士卒 250,000円

学部卒 230,000円

高専卒 210,000円

● 問い合わせ先

株式会社ピーエス三菱

総務人事部人事グループ採用担当

住所 〒104-8215

東京都中央区晴海2-5-24

TEL 03-6385-8003(採用担当)

URL <http://www.psmic.co.jp/>

E-mail psmsaiyou@psmic.co.jp

出典：日経アーキテクチュア
日経コンストラクション
学生向け特別編集版

「建築の鼓動土木のチカラ2019」

35タイプの客室形状を設けたオフィスからホテルのコンバージョン トーセイホテル ココネ上野

東京都台東区

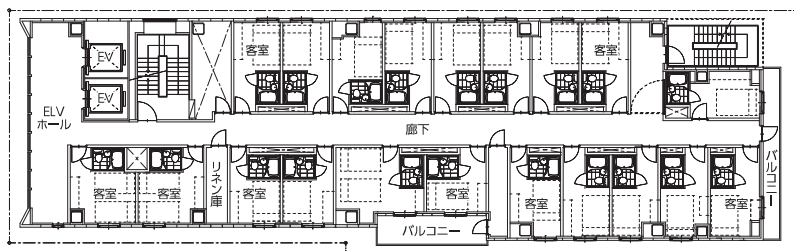
設計・監理／ピーエス三菱一級建築士事務所
施工／ピーエス三菱



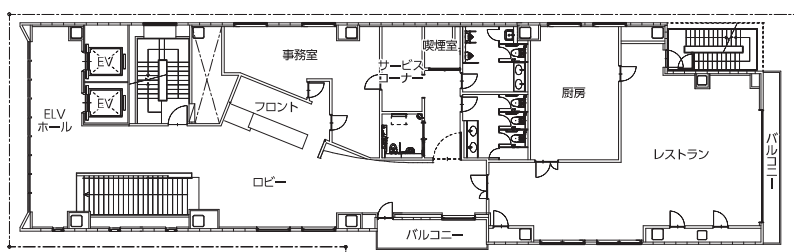
上／ホテルフロント 2階事務室スペースを全面改修 左下／エントランスからフロントに至る階段を新設 中下／2階ロビー 右下／11階ルーフバルコニーを改修したテラス



ファサードはオフィスビルのガラスカーテンウォールのままサイドの外壁を改修



3-4階平面図



2階平面図 縮尺1/400

『こころの音が響く宿』

「トーセイホテル ココネ上野」は事業主であるトーセイが運営する2件目のホテルであり、オフィスビルのホテルコンバージョンでは初となる物件である。建物は築13年の地上11階、地下2階の事務所ビル。トーセイが2016年9月30日に取得した。ビジネス・観光の拠点である上野駅から徒歩数分の大通りに面した好アクセスな立地にある。既存建物は表と裏に道路がある細長い敷地で、表の大通り側にガラスカーテンウォールを持ち、裏側と隣地側両サイドがセットバックする形状である。建物のスケルトンが決まっている中で如何に効率良くどう収益を最大化するか、5階からセットバックが始まるため基準階がなく客室の形状は35タイプにも上る。そのためバリエーションに富んだ126室の客室を設けることができた。既存建物は1階の大半が駐車

場のためホテルの共用部を2階に設けた。3階から11階が客室である。構造検討を行い宿泊者をエントランスから2階のロビー、フロントに導く大階段を設けた。

建築設備は極力既存設備の利用に努めたが受水槽の増設、用途変更による法定設備の更新、ホテル設備の新設等を行った。既存建物の階高が3.7mあり、構造躯体を変更することなく換気設備等計画することができた。エレベーターの改修を行い客室のカードキーと連動したフロアセキュリティを設定した。

建物外観は従前のオフィスビルの意匠のままクリーニング、リニューアルを行い、客室の法的採光をとるため外壁・窓の設置改修を行った。

内装の意匠はトーセイのホテルブランド「TOSEI HOTEL COCONE」の基本コンセプト、『心地よい、こころの音が響く宿』を実

現すべく和の装いとモダニズムが融合したモダンな落ちつきのある空間を目指した。室は時代やトレンドに流されない普遍的なデザインをベースに、ダブル、ツインを主としたスタンダードルーム、レディースルーム敷きの小上がりを設けたジャパニーズム、家族で利用できるファミリールーム用者のニーズに対応できる多様なタイプ客室を設けている。

このホテルがトーセイホテルの目指す『よい、こころの音が響く宿』となるよう者が日常を忘れ心安らげるホテルとなるを願っている。

(藤田真也／ピーエス)



藤田 真也……ふじた しんや
1968年愛媛県生まれ。1991年
大学工学部建築学科卒業、同年
三菱（当時三菱建設）入社。
同社建築本部設計部意匠設計
グループ



左／客室階エレベーターホール 右／パリアフリールーム浴室

左上／畳敷きの小上がりを設けたジャパニーズルーム 右上／スタンダードルーム 左下／パリアフリー客室 右下／レディースルーム

トーセイホテル ココネ上野 データ

所在地 東京都台東区東上野2-18-5

主要用途 ホテル

事業主 トーセイ株式会社

設計・監理 ピーエス三菱一級建築士事務所

担当／意匠：藤田真也 電気：正田隆寿

機械：井川裕文 監理：藤田真也、正田隆寿、井川

裕文

構造 アイビーエス設計 担当／鯨吉新一

デザイン監修 南條設計室 担当／野呂信哉、阿部早苗

(協力／リーソンアーキテクト 李成熙)

新築時設計・監理 戸田建設一級建築士事務所

施工 ピーエス三菱

担当／営業：重村 誠 施工：飯田尚孝、伊藤智浩

新築時施工 戸田建設

設計期間 2017年2月～2018年2月

工事期間 2018年2月～2018年10月

開業 2018年12月

新築時竣工年月 2005年4月

【建築概要】

敷地面積 527.34㎡

建築面積 432.87㎡

延床面積 4,429.22㎡

建ぺい率 82.08%

容積率 756.51%

構造規模 S造一部SRC造、RC造 地下2階、地上11階、
塔屋1階

最高高さ 45.15m

階高 1階：4.05m 2階～11階：3.70m

天井高さ 客室：2.5m

主なスパン 9.96m×8.10m

道路幅員 西：43.95m 東：8.0m

地域地区 商業地域、防火地域

客室数 126室

シングル1室、ダブル95室、ツイン30室

【設備概要】

電気設備 受電方式／高圧受電 予備電源／非常用発電機

空調設備 空調方式／パッケージマルチエアコン

衛生設備 給水／受水槽＋加圧給水ポンプ方式 給湯／

大型ガス瞬間湯沸器、連結型 排水／集合管方式

防災設備 消火／スプリンクラー設備、消火器、連結送水

管設備、粉末消火設備 その他／自動火災報知設備、非常

照明、誘導灯、非常用コンセント 排煙／自然排煙：
告示適用

昇降機 乗用13人乗×2基

【主な外部仕上げ】

屋根 アスファルト防水の上押えコンクリート

外壁 スチール焼付けパネル、ALCの上弾性吹付け

建具 アルミカーテンウォール、アルミサッシ

【主な内部仕上げ】

エントランス・ロビー 床／磁器質タイル、塩ビタ

壁／化粧塩ビシート 天井／塗装、化粧塩ビシート

共用廊下 床／タイルカーペット 壁・天井／ビニ

ロス

客室 床／タイルカーペット 壁・天井／ビニルク

撮影／榎銀総

出典：近代建築

2019年1月号

SDGsとPC技術

持続可能な社会の構築に向けた

誰一人として 置き去りにしない

挑戦に向けて



不当行為や不平等、自然への脅威など

「貧困につながるあらゆる要因や側面」の撲滅を目指す「2030アジェンダ」

2015年9月、国連は161の加盟国の首脳が出席した「国連持続可能な開発サミット(2015年)」にて、人権の侵害をはじめとする様々な不平等や、地球および天然資源の保全に対する脅威などを含む、「貧困につながるあらゆる要因や側面」を撲滅することが現代社会における地球規模の最大の課題であり、社会の持続可能な開発(進展)に不可欠な条件であるとして17の「持続可能な開発

目標(SDGs)」と、169のターゲットからなる「2030アジェンダ」を採択しました。

また、貧困や不平等に最も苦しむ人たちの救済を優先しつつ、「誰一人として置き去りにしない(No one will be left behind.)」という決意のもと、官民の組織力と英知を総動員し、2030年までに、休むことなく、このアジェンダの完全履行を目指してコミットしていく、としています。

“企業力による課題解決”に大きな期待を寄せるSDGs

SDGsでは国家間等における“垣根”の問題を越えやすい企業活動を通じた課題解決に大きな期待を寄せています。また、企業向けガイダンスとなる「SDG Compass」では、「企業規模の大小にかかわらず、SDGsの各目標に関連する分野において革新的なソリューションや抜本的な変革を進めていくことを通じて、それぞれの企業に“新たな成長の機会(ビジネスチャンス)”をもたらす可能性があ

る」こと、つまり本業を通じた「Win-Win」型のCSRとして企業戦略上のメリットにもなりえることを指摘しています。

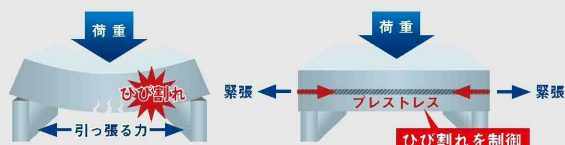
2016年には日本政府も「持続可能な開発目標(SDGs)推進本部」を設置。また、「2030アジェンダ」に呼応する経済団体および各企業の取組みも進んでおり、SDGsに関する様々な取組み事例も報告されるようになりました。

PC技術とは

PCはPrestressed Concreteの略で、「あらかじめ応力を与えられたコンクリート」という意味になります。圧縮には強いが、引っ張られる力(引張力)には弱い、というコンクリートの弱点を補うために考えられたのが鉄筋コンクリート(RC)ですが、それでもある程度の引張力を超えると劣化や破損の原因となるひび割れが生じます。そこで鉄筋の代わりにPC鋼線などをあらかじめコンクリート躯体の内部に埋め込み、それを油圧ジャッキなどで引っ張った状態にしたまま(この作業を「緊張」と言います)コンクリートを流し込んで固めてしまうと、コンクリート内部に引っ張りに負けまいとする力(圧縮応力)が生じ、圧縮にも引っ張りにも強い構造となります。

鉄筋コンクリート

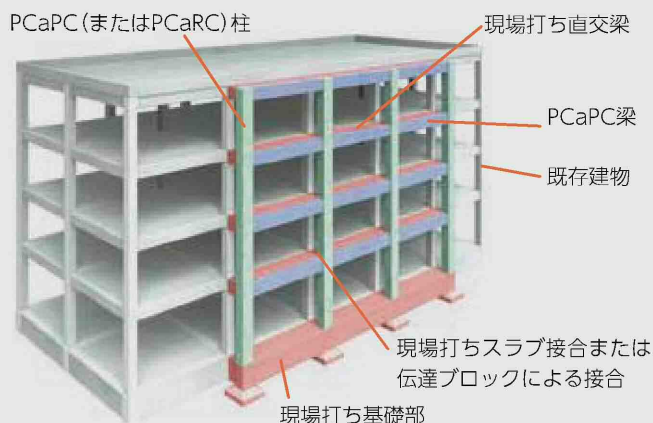
プレストレストコンクリート



既存建築物の耐震補強に優れる

PCaPC 外付けフレーム耐震補強工法

既存建物の外側に耐震性能に優れたPCaPCの補強フレームを設けて既存側と接合させる工法です。①建物を使用しながらの施工が可能で、②建物内部空間が狭くならず、③部材の質感と美しさを活かし、リニューアルが可能、などのメリットがあります。



PC技術とSDGs

～本業を通じた「Win-Win」型の社会貢献に向けて

SDGsは、ピーエス三菱グループの企業活動についても無縁ではありません。バリューチェーン全体を俯瞰して、人権の侵害をはじめあらゆる不正や不平等の撲滅に注力することはCSRの大前提でもあります。例えば、17の目標の中の「9」「11」などはまさに建設業の本業部分での使命にほかなりません。

特に「強靱(レジリエント)」な建造物の構築という部分では、世界でもトップレベルの技術力を誇る当社グループのPC技術にさらなる期待が寄せられます。

「12」「13」などについても、PC技術は、省エネ・省資源の面で大きな貢献を果たすことが可能です。

私たちピーエス三菱グループでは、SDGsを決して他人事とせず、新たなビジネスチャンスとして、より広い視野で企業価値を高めていく手段のひとつとして経営戦略に積極的に取り組み、さらなる社会貢献につなげていきたいと考えます。また技術的なメリットをさらに高める努力を続けるとともに、世の中に対して大いにアピールしていくことも必要であると考えています。

9 産業・インフラの強靱化 強靱(レジリエント)なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進およびイノベーションの推進を図る

11 持続可能な都市とコミュニティ 包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市および人間居住を実現する

高強度のコンクリートの中に埋め込んだPC鋼線を緊張させることで強度やじん性を高めたPC部材は、天井の梁や柱、通行する車両などの重みに耐えられることから、柱のない大空間や高さ60m以上の超高層ビル、あるいは日々大量の大型車両が通行する道路橋や中央径間が100m以上もあるような大スパン橋などの建設に幅広く用いられています。

耐震性能はもとより、耐振動性、耐久性に優れたPC部材は、後述する「工業化工法」により工期の短縮も可能であることから、地震などの大型自然災害から国民の暮らしや経済を守る「国土の(早期)強靱化」や新興国の経済発展に欠かせないインフラ整備の切り札として、期待が高まっています。



高速道路橋の床版取り替え工事



港湾道路



大スパン構造の体育館

12 持続可能な生産消費 持続可能な生産消費形態を確保する

[具体的な取組事例]

- ▶ 3R(リデュース・リユース・リサイクル)を含む合理的な生産・消費システムの構築
- ▶ 資源循環の促進(産業廃棄物排出量の抑制・埋立量の削減)

13 気候変動およびその影響を軽減するための緊急対策を講じる

[具体的な取組事例]

- ▶ 地球温暖化物質の削減につながる生産・消費システムの構築

PC技術で採用される工法には、建設現場にてコンクリートを打設する従来型の工法のほか、建設現場近くの作業ヤードや現場から離れた工場などで製造したPCa(プレキャスト)部材を現場で組み立てる工業化工法(PCa工法)があります。工場などで行われる「(天候等の影響を受けない) PCa工法」の場合は、所定のスケジュールのもとでの、一貫システムによる合理的な生産が可能ことから、工期短縮も併せた「省エネ」効果につながる大きなメリットがあります。加えてコンクリート打設などの現場作業削減により、現場周辺環境への影響を低減できます。



PCaPC梁部材仮設状況





ピーエス三菱のPR動画を作成しました。



将来予測に関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における将来予測に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。また、業績等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、安全性を保証するものではありません。本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。このため、実際の結果と大きく異なったり、予告なしに変更される可能性がありますので、あらかじめ御了承ください。

IRに関するお問い合わせ先

株式会社ピーエス三菱 管理本部 総務部 広報・IRグループ
〒104-8215 東京都中央区晴海二丁目5番24号 晴海センタービル
TEL : 03-6385-8002 FAX : 03-3536-6927 メールアドレス : koho.ir@psmic.co.jp